



ゆづりは

堺市立図書館だより

第11巻 第1号 (通巻39号)
 発行日 平成28年6月25日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321

堺市図書館100周年記念

津村記久子(芥川賞作家)トークセッション

「自著そして読書について語る」

6月に堺市立図書館は100周年を迎え、「100周年記念事業」を実施しています。その中心となる行事として、芥川賞作家・津村記久子さんをお招きし、平成28年6月19日(日)に堺市立南図書館ホールでトークセッションを開催しました。



津村記久子さん(左)と書評家の江南亜美子さん(右)のトークセッション。会場へは、多くの方にお越しいただきました。身近な題材や等身大に近い人物が描かれた作品について語られ、会場からの質問にもこたえていただきました。

堺市立図書館100周年にあたり、本誌へコメントをいただきました。津村さんは、「大仙公園や中央図書館は幼稚園の時、親に連れてきてもらった思い出があります。5月には、クロスバイクで、『ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ』に出かけたり、堺のショッピングモールにも行くことがあり、とても身近です。堺市には、また住みたいです。」と堺に対する思いを語られました。江南さんは、「図書館がなければ、この仕事はしていなかっただろう。150年、200年をめざして、引き続き、図書館を盛り上げてほしい。」とのコメントをくださいました。

津村 記久子さん

平成21年『ポトスライムの舟』で第140回芥川賞受賞、23年『ワーカーズ・ダイジェスト』で第28回織田作之助賞受賞、25年『給水塔と亀』で第39回川端康成文学賞受賞。28年『この世にたやすい仕事はない』で芸術選奨新人賞を受賞。自身の会社員生活の経験を元に、働く人々や女性を描いた作品で知られる。大阪在住であり、近畿地方を舞台にした作品、関西弁を話す登場人物も多い。

江南 亜美子さん

近畿大学・京都造形大学非常勤講師。女性ファッション誌、文芸誌、新聞などの媒体で、数多くの書評や作家インタビューを手がける。新人賞応募作の一次選考も多く担当し、新人小説家の発掘にも力をそそぐ。図書館通いは30余年のキャリア。共著に『きっとあなたは、あの本が好き。連想でつながる読書ガイド』(立東舎)など。

目次

堺市図書館	100周年記念	… 1
堺市図書館	100年のあゆみパネル展	… 2
堺市立図書館	100年史	… 2
シリーズ堺の〇〇	堺の水族館	… 2
この本で解決!	～落語について～	… 3
堺かるた	いろはの「さ」	… 3
司書のイチ押し!	『バガージマヌパナス』	… 4
堺市立図書館電話番号一覧		… 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
 ゆづりゆづりて 譲り葉の
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



堺市図書館100年のあゆみパネル展

このパネル展では、堺市立図書館の前身である「桜友（おうゆう）文庫」開設の明治37(1904)年までさかのぼり、中央図書館が開館するまでの歴史や、現在図書館サービスを行っている7区12館の歴史を各区域ごとにご覧いただきます。

市民のみなさんとともに歩んできた100年の歴史をふりかえることで、地域の「知の拠点」として未来につながる一助となれば幸いです。

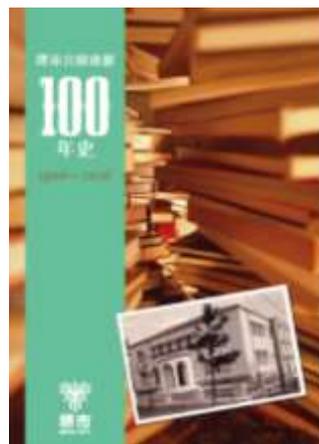
- ・6月1日(水)～10日(金)
北区役所1階エントランス
- ・6月16日(木)～26日(日)
南図書館2階エントランス
- ・6月30日(木)～7月24日(日)
中央図書館1階ロビー
- ・8月～
各区域図書館で巡回展示



堺市立図書館100年史

堺市立図書館の100年をよりじっくりと振り返るための『堺市立図書館100年史』も作成いたしました。堺市立図書館とゆかりの深い方からお寄せいただいた「回顧コラム」のページもあります。

6月19日(日)から堺市立中央図書館、中図書館、東図書館、西図書館、南図書館、北図書館、美原図書館の各館および市役所(本庁)市政情報センターで販売(500円)。



シリーズ 堺の〇〇



堺の水族館



明治から昭和初期にかけて堺大浜は観光地としてにぎわっていました。その中心施設の一つであった水族館についてご紹介します。

明治36年(1903年)、第5回内国勸業博覧会の第2会場として大浜公園に水族館が開設されました。当時、政府は殖産興業政策のため、博覧会の開催に努めていました。第5回は堺商業会議所のメンバーの尽力もあり、大阪市天王寺を第1会場に、堺大浜公園を第2会場として開催されることとなったのです。

水族館は、すでに公園となっていた南砲台跡地に建設されました。展示水槽数は合計29。欧米でも稀な大魚槽や、天井から吊り下げ下から見上げることができる水槽などがあり、当時アジア第一の規模を持つ水族館でした。122日の会期中、水族館の観覧者は80万人を超え、大変な人気となりました。

博覧会閉幕後、堺市が払い下げを受けてあらためて市営の「堺水族館」としてオープンさせましたが、昭和9年(1934年)台風による高潮におそわれ水族館は大破、さらに修繕中に火事にみまわれ全焼してしまいました。再建は多くの困難がありましたが、昭和12年(1937年)に市内在住の方の10万円の寄付により実現しました。

第二次大戦後、昭和28年(1953年)に水族館の大規模な改装を行い、かつてのにぎわいを取り戻し

ましたが、昭和36年(1961年)第二室戸台風でまたも被災、市民に愛された水族館は残念ながら閉鎖されました。



参考文献

- 『堺市史』第三巻、堺市役所、1930年
- 『第五回内国勸業博覧会事務報告』下巻、農商務省、1904年
- 「堺水族館の原型は神戸和田岬にあった」西田光男【『堺・泉州』(堺泉州出版会、2004年)15号所収】

この本で解決！ ～落語について～



落語は老若男女、多くの人に愛されて人気がある演芸です。

中でも古今亭志ん生は、没後50年近くになるにもかかわらず、いまだに人気の落語家です。また演じた落語の数も大変多い落語家で、発表された音源が数多くあります。しかし、その音源には重複したものが多くあることも事実です。

『志ん生全席落語事典』は、演題ごとに整理し、その演題のあらすじ、解説、その数多く発表された音源を整理した落語事典です。こういった個人の著作や発表したものを整理した調べるための資料を「個人書誌」と呼びます。

一方、昨年亡くなった桂米朝の『米朝ばなし上方落語地図』は、上方落語の舞台になった地域・地名からどんな落語があるかを解説した資料です。演題の索引を使うと、落語の演題から、地名を逆に検索することもできます。

どちらも、読み物的な要素が強い資料ですが、落語に関することを調べる資料は多くなく、どんな内容の落語なのかを調べるにはとても参考になる資料です。



『志ん生全席落語事典』

安田武宏/著 大和書房



『米朝ばなし上方落語地図』

桂米朝/著 講談社

『米朝ばなし上方落語地図』には、堺に関する地名も多く、大和橋、妙国寺、大浜、大道九間町が取り上げられています。普段見慣れている景色も、落語に取り上げられたと知って歩くと、また違って見えることでしょう。

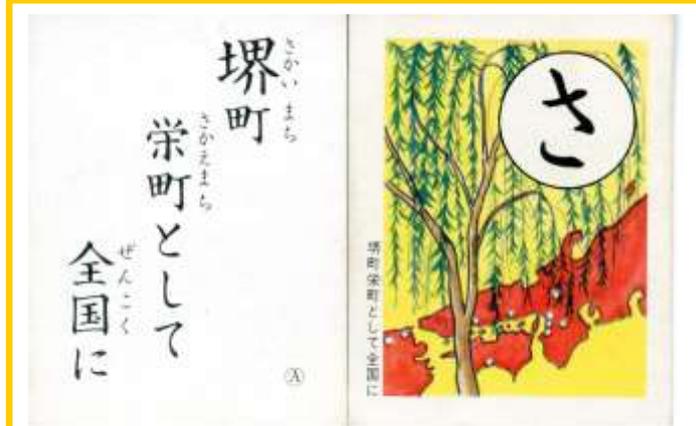
また、落語に関する本は、本の背表紙に記している分類記号では、「779.13」に分類されます。落語にご興味のある方は、「779.13」の棚もあわせてご覧ください。

なお、『志ん生全席落語事典』は出版社によりますと、現在、品切重版未定とのことです。図書館には所蔵がありますので、図書館資料をご活用ください。

堺かるた - いろはの「さ」 「堺町 栄町として 全国に」

16世紀後半、大坂城築城にあたり、豊臣秀吉は大坂の地に堺の商人を呼び寄せて住ませました。それが現在の「堺筋」の由来ですが、堺に由来するのは大阪だけではなく、秀吉の後に続くように、全国の大名が商業振興を図るため、堺商人を城下町に呼び寄せたのです。大和郡山、広島、高知などの旧城下町に「堺町」「栄町」という地名が今でも残っています。

「堺」の名を冠した地名が全国各地にあるのは、うれしい限りですね。



参考文献

『角川日本地名大辞典 別巻1』角川書店 1990

『堺市史 第三巻 本編第三』堺市編/著 堺市 1930

『むかしの堺』別所やそじ/共著 堺児童文化振興会 1976

司書のイチ押し!

「バガージマヌパナス」 池上永一／著 新潮社

「ハリー・ポッターシリーズ」の人気の影響で、多くのファンタジー小説が知られるようになり、「ファンタジー」が一つのジャンルとして確立した感があります。多くの本は「剣」や「魔法」を扱い、読者を魅了しているようですが、その「ファンタジー」を名に冠しておきながら、少し変わった毛色の作品を世に出した文学賞があります。

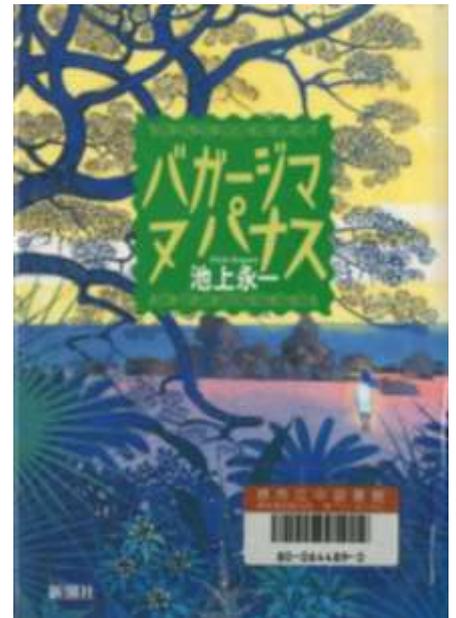
「日本ファンタジーノベル大賞」、1989年に創設されたこの賞の第1回受賞作は、架空の中国王朝を舞台にした『後宮小説』（酒見賢一／著）でした。その後も鈴木光司や畠中恵ら、多くの人気作家を輩出しましたが、「ファンタジー」という言葉の一般的な印象では測れないような作品が受賞しています。

その中で第6回の大賞を受賞した『バガージマヌパナス』も一味違った作品でした。舞台は沖縄、一見難解な題名は沖縄弁による「わが島のはなし」という意味です。主人公の綾乃は、色白でロングヘアの超美少女。ところが彼女はとんでもなくグータラで、乱暴者の問題児。遊び仲間の近所の老婆オージャーガンマーと畑から果物を盗んだり、やりたい放題。ところがそんな綾乃が神様から「ユタになれ」とお告げを受けてしまいます。ユタになりたくない綾乃は、あの手この手で回避しようとはしますが…。

綾乃とオージャーガンマーの軽快なウチナーグチ(沖縄弁)の会話と、二人が巻き起こす数々の騒動が抱腹絶倒なのですが、綾乃の荒々しい言葉遣いや行動の中で沖縄の文化や風習への誇りが語られ、沖縄の持つ課題なども浮かび上がります。何よりも、綾乃のオージャーガンマーとの家族を超えた絆が胸を打ちます。

作者の池上永一には、温暖化によりジャングルと化した未来の東京を描いた『シャングリ・ラ』、幕末の琉球王朝を舞台にした『テンペスト』など、映像化された作品も多くあります。どの作品やエッセイもエピソードが強烈で、ふざけているとしたか思えないこともあるのですが、故郷沖縄への熱い思いや、登場人物の固い絆に、不意打ちのように涙腺を刺激され、気づいたら鼻をすすっていることも。

「日本ファンタジーノベル大賞」は、2013年の第25回を最後に休止されていましたが、2017年の再スタートが決まりました。新しい才能を世に送り出す賞として、今後も期待しています。(M・K)



堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター	船松人権歴史館
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		

ホームページ URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>